2022/9/7 Vol.2259

Tanabe East Rotary Club in 2022-23

2022-23年度RI会長
ジェニファー・ジョーンズ
第2640地区ｶﾞﾊﾞﾅｰ：森本　芳宣
田辺東ロータリークラブ
創立：昭和49年5月15日
会長：岡本　博
幹事：前田　吉彦

イマジン
ロータリー

例会場/事務所：田辺市下屋敷町81－10
きのくに信用金庫田辺支店3F
Tel 0739-24-6427 Fax 0739-34-5008
http://tanabe-east-rc.com/
E-mail info@tanabe-east-rc.com
例会：毎週水曜日　12:30～
ビジターフィー　¥2.000

○会長報告

会長　岡本　博

■8月24日，31日は時短例会とさせていただきました。本日より、通常例会といたします。唱歌は唱歌委員さんに歌っていただき、お食事は黙食として開催させていただきます。よろしくお願い致します。

■本日のプログラムは、会員卓話として上原俊宏君にお話しして頂きます。後ほど宜しくお願いします。

■田辺ライオンズクラブ様より、結成50周年史が届いています。回覧後は事務局に置いていますので、ご覧になりたい方はお声がけください。

■田辺はまゆうＲＣ前年度会長 山本佳弘氏より30周年記念誌・ＤＶＤ・集合写真届いています。

■本日のお弁当は「宝来寿司」さんです。ご賞味ください。

■米山記念奨学会より米山功労者の感謝状表彰が届いています。

第5回米山功労者　　坂本　正人君

第1回米山功労者　　野村　憲司君

○幹事報告

幹事　前田　吉彦

■例会日時変更

◎御坊ＲＣ
9月2日(金)、9日(金)、16日(金) → 例会取止
(新型コロナ感染拡大防止のため)
9月23日(金) → 休会

◎高野山ＲＣ
9月9日(金) → 例会取止
(新型コロナ感染拡大防止のため)

◎和歌山南ＲＣ
9月30日(金) → 9月30日(金) 18:30～
場所：ダイワロイネットホテル和歌山
(新会員歓迎会)

◎和歌山東ＲＣ
9月15日(木)→ 例会取止
9月22日(木) → 休会

■回覧

◎「英語版ロータリアン9月号」
◎森本ガバナー事務所より
「ガバナー月信9月号」
◎ＲＩ日本事務局より
「財団室ＮＥＷＳ　8月・9月号」
◎田辺ライオンズクラブより
「結成50周年史」

■連絡

◎9月のロータリーレートは1ドル＝139円です。

四つのテスト：1. 真実かどうか2. みんなに公平か3. 好意と友情を深めるか4. みんなのためになるかどうか

○ゲスト、ビジター

田辺はまゆうロータリークラブ　　直前会長　山本佳弘様

○出席報告

会員数 37名　義務免除 4名　本日の欠席者 3名

本日の出席率　90.91%

○本日の唱歌

君が代　奉仕の理想

谷本司君

○にこにこ報告　（敬称略）

◇昨年度はお世話になり、ありがとうございました。
遅くなり申し訳ございません。
30周年記念誌とＤＶＤと写真持って上がりました。
本日、お世話になります、宜しくお願いいたします。
田辺はまゆうＲＣ　直前会長　山本佳弘様

◇本日は上原先生の内卓です。
愛須勝章、上原俊宏、岡本博、片井貢、畔田実、
小山實、坂本正人、佐田一三、武田静也、
竹中悟、竹村英一、谷中順次郎、谷本司、
中嶋伸和、西谷貞彦、野村憲司、平林圭介、
本田耕二、前田吉彦、真下京、山本亘

◇上原先生今日は何の話をしてくれるのでしょうか、
楽しみにしています。　泉房次朗

◇先日文館にて、キエフバレエ"白鳥の湖"を鑑賞
してきました。本場ウクライナの素晴らしい踊りと
共に魅了されてきましたひと時でした。
吉田和枝

◇奥様誕生日
いつもありがとう。これからもよろしく。
玉置佳範

◇お花いただきます。　森本修至

○本日のプログラム

会員卓話　上原俊宏君

「空 」

何時の頃から空を見上げるようになったのだろうか、若い頃はひたすら前を見て歩いていた。今はないが和歌山市のブラクリ街の始まりは丸正百貨店との交差点から始まっていた。
和歌山に住んでいた頃、この丸正百貨店からブラクリ街へ、あるいはブラクリ街から丸正百貨店へ渡る横断歩道、ここには信号があり、青信号になると一斉に老若男女が渡り始める。
この青信号が青になるときは一番でなくても、渡り終えるときには何時も一番早く横断歩道を渡ることを心掛けて歩いていた。むきになって歩いていた若い頃の話である。
ところが、同じように人の多い交差点つきの横断歩道が大阪駅と鉄道の高架付近にあった。ここでも青信号になるや颯爽と渡り始め、渡り終えるときには一番になる事を心掛けて歩いていた時代がある。でも和歌山では可能であったけれども大阪駅梅田交差点では必ずしもうまく行くわけではなかった。歩く速歩が遅いわけではない。大阪人はしばしばフライングをする。車が渡り終わる寸前に信号に関わらずに横断歩道を渡り始めるのである。
それ以来、都会地での速歩は止めにした。カラダよりも気持ちが疲れるからである。
それでも田辺に住む頃までは、もう数十年も前になるが、前を向いて速歩きをしていた。
田辺では毎日朝の散歩を欠かさない。雨の日も、雪の日も、警報が出ていなければ歩くことにしていた。ところが、朝の舗装道路では、歩行者もかなり少ない。速歩きをして先人に追いつくことの出来る状況は、あまりない。登校学童を除けば住宅街を歩く人は極めて少ない。そのことが理由かも知れないが、前というよりも、下をあるいは道草を眺めながら歩くような歩行を好むようになった。路傍の花を観賞し、宅地の坪庭の花を愛でながら、季節を感じながら歩くようになってきたのである。小山トレッキングや熊野古道散策では特に石道があるので下を向いて歩く必要がある。道を見ながら草を見るという歩行スタイルになる。

数十年のそんな歩行スタイルが変わった。
上を見るようになったのである。対向車、対向人の殆ど無い舗装道では、下を見なくてもつまずくことは殆ど無い。ある程度の速度でしかも上を見ながら歩くことが出来るのである。
このばあい、季節を感じることが多い。

あかあかと　日はつれなくも　秋の風

奥の細道　芭蕉

この歌の「あかあか」とは調べたり考えたりせずに「赫赫」あるいは「赤々」と理解していた。夏の赤い日照りのなかに、ふと秋風を感じるという意味にとっていたのである。
この歌の本歌とされる

秋来ぬと　目にはさやかに　見えねども
風の音にぞ　おどろかれぬる

藤原敏行　古今集

には、赤い日差しの記載は無くひたすら目に見えない空気のさわやかさ、風のすずやかさを感じて秋と結びつけているように思える。本歌の意味からしても芭蕉が感じたのは赫赫（あかあか）では無くて「明明：あかあか」であろうと思われるのである。
夏の高温、高湿度の太平洋高気圧から、前線の通過により、乾燥した温度の低い、爽やかとも思われるシベリア高気圧の到来を肌で感じたのではないだろうか。
この歌に感じられる風　或いは空気に関して、何もないのが空であるとすれば、空には多くのモノ、気が含まれることに気がつくであろう。湿気とか温度とかを古人は感じたのであろうが、空にはさらに多くのモノが含まれる。物理学ではそれを場（フィールド）と表現することもある。

曰く、電場　磁場、重力場　あるいはダークマターとか、放射線も含まれるかも知れない。
それを宗教では、眼耳鼻舌身意（げんにびぜつしんに）の六根で感じる事の出来ない望外の事象があるというのである。今回は空を見ながら、例えば電磁場がベクトル解析という手段により理解できることを紹介し、その電磁場で趣味として遊ぶことを話してみた。自粛生活の中で見いだした楽しみでもある。
秋の空気の中に気配のする見える草花　七種
萩　薄　女郎花　葛　尾花　藤袴　撫子
また、目に見えない空の中にも、多くのエネルギーが溢れ飛び交う。ある日の電波の伝播状態を示して、空なる空間にも多くのエネルギーが満ちていることが分かる。

へくそかずら
（やいとばな）

ががいも

欧米、
インドネシア
南米　南ア方面、
またハワイにも
伝搬している。

○今日のお弁当

本日のお弁当は
「宝来寿司」さんの
お弁当でした。
美味しく頂きました。

○次回プログラム

9月14日　ガバナー補佐事前訪問
9月21日　ガバナー公式訪問
（ガバナーが来られますので、出来るだけ
全員出席をお願いします）
9月28日　会員卓話　稗田智則君

四つのテスト：1. 真実かどうか2. みんなに公平か3. 好意と友情を深めるか4. みんなのためになるかどうか